

議員（小川 保）

失礼いたします。7番、小川保です。

本日の質問は、水害対策の実施結果と実施予定について、多度津駅跨線橋のエレベーター設置について、自転車事故が少なくなるまちづくりについて、以上3点についてお伺いいたします。

このたびの台風並びに地震により被災され亡くなられた方々へ哀悼の意を表したいと存じます。

先日8月24日に、多度津町子ども議会が開催されました。

将来を担う児童・生徒たちがしっかりと明快に丸尾町長を初め、行政のリーダー、皆さん方に質問している姿が印象的であり、頼もしく感じました。

ただ、たくさんの傍聴人が来られていましたが、一度に入場できず、交代であるいは外で息を凝らして聞いている状態はお気の毒でなりませんでした。

できましたら、廊下あるいは控室などで、モニターもしくは音声だけでも聞くことができると至極残念に思いました。

要望しておきます。

さて、1点目、水害対策の実施結果と実施予定について。

桜川3河川の流域では、長年、大雨、高潮などによる氾濫に悩まされておりましたが、本年の対策で住民の安全・安心に寄与できるだろうと考えております。前回6月の定例会におきまして、それらの状況を質問し、予定など回答いただきましたが、ここで改めて、実施結果、工事中、今後の予定などをお聞かせいただきたいと思います。

町長（丸尾 幸雄）

小川議員の水害対策の実施計画と実施予定についてのご質問についてお答えをしてみたいと思います。

6月定例会において、水害対策の進捗状況としてお答えいたしました県施工の桜川護岸かさ上げ工事につきましては、当初の予定どおり、8月末においておむね工事が完了いたしました。

一部未施工のかさ上げについても早期完成に努めると聞いております。町施工では、栄町地区の西水戸ポンプ場遊水地と元町地区の茂八ポンプ場遊水地についての堆積土のしゅんせつ工事は竣工しており、栄町地区の多度津高等学校北側水路のかさ上げ工事につきましては10月初旬の完成を予定をしております。あわせて、防災の観点からは、長期にわたった7月豪雨の影響を勘案し、従来

の、課員全てを1つの班に充てる水防時行動班の編成を見直しました。執務時間中であっても通常業務及び水防活動を円滑に実施できるよう4班体制とし、各課から均等に職員を充てることで人数バランスに配慮した行動班を編成いたしました。実際に運用した台風21号の際には、執務時間中の招集もあ

りましたが、予定どおりの水防活動を実施することができました。
また、県のかさ上げ工事に伴う内水排除の対策としてエンジンポンプを8月に5基追加購入をし、町既存のポンプと合わせて、台風20号の際には水防活動で実際に現地にポンプを設置いたしました。
次に、本年度の水害対策としての実施予定につきましては、西水戸遊水地及び茂八遊水地の2カ所について排水能力の増強としてポンプの更新を12月末までに予定をしております。
また、今後の予定といたしましては、県と町で進めております桜川流域総合治水としての水害対策を現在検討中の対策案についてさまざまな事業の組み合わせを桜川流域の水害対策として、実現性、適応性、効果、維持管理などを協議検討し、事業の計画、実施を図っていきたいと考えております。
ご理解賜りますようお願いをし、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

ありがとうございます。
今回、ポンプ設置対応、こういったものをいただきました。
住民から、後日、必要な箇所に迅速に設置してくれたので安心でしたとのお話をいただいております。
そのこととあわせて、こんな質問もいただきました。
質問です。
東桜川が小桜川と合流する部分の橋と河川の拡幅などの県工事が随分長い期間の工事になっておりますが、どのような内容か。
いつまでかかるのでしょうか。
いかがでしょうか。

建設課長（三谷 勝則）

失礼します。小川議員の質問についてお答えします。
県に確認したところ、東桜川にかかる二ツ橋1号橋についてですが、右岸側の橋台は平成28年12月に完成しており、現在は左岸側の橋台を施工中で、工事は河川内での施工となり、綱矢板で閉め切ってしまうため工事期間については時間を要しておりましたが、今月末には橋台が完成予定です。
また、橋梁の上部工である橋桁の製作、架設は本年3月に発注しており、現在は現地において架設工事の施工中で、来月には上部工についても完成予定です。
橋梁工事完了後は、東桜川と小桜川間の護岸工事を来年1月までに、橋梁と道路との取り合わせ工事については来年3月までに施工を完了し、今年度末までには現在通行どめになっている箇所については供用開始できる予定です。
また、桜川の拡張工事については、橋梁から上流部の町道335号線にかかる友

保橋までの区間において、右岸側の護岸工事を今年度に、左岸側の護岸工事は来年度に発注予定と聞いております。

町としても、県と協力しながら一日でも早い完成に努めたいと思います。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

ありがとうございます。

2点目です。多度津駅跨線橋のエレベーター設置について。

本年3月に竣工、渡り初めをしました跨線橋はJR多度津駅を挟み、両サイドの地域を結んでおり、児童・生徒の通学路、鉄道利用の皆さん方に利用されております。

また、生活道路としても重要であり、その利便性が望まれておりますが、残念ながらバリアフリーができておりません。

また、従来の跨線橋と比べてかなり高い位置になっておりますので、上りおりなど大変難渋しているようです。

質問です。

エレベーターの設置が急がれますが、設置に向けて、この計画などお聞かせください。

政策観光課長（河田 数明）

小川議員の多度津駅跨線橋のエレベーター設置についてのご質問に答弁をさせていただきます。

多度津駅周辺に整備しました緊急避難路である幸見通り跨線橋は、本年3月に竣工し、多度津駅を利用する方を中心に多くの町民の皆様にご利用いただいているところでございます。

しかしながら、議員のご指摘のとおり、より多くの皆様にご利用いただくためには利用者の利便性向上やバリアフリー化を行うなどの課題があることも認識しております。

そのため、国の社会資本整備総合交付金を活用し、エレベーターの設置を計画しており、本年度におきましてはエレベーター設置に向けた設計を行うこととしております。

本年度の交付金の交付決定が7月にあり、この交付決定後に予備設計を発注し、現在エレベーターの設置位置や仕様の検討などを行っているところでございます。

今後、JR四国などの関係機関と協議を行いながら、予備設計を行った後、エレベーターの構造などを詳細に検討する実施設計を発注し、今年度中に完了する予定としております。

また、設置工事につきましては、来年度の早期に工事を発注する計画としてお

ります。

本跨線橋は、多度津駅に隣接し多くの町民の皆様にご利用いただいておりますことから、今後もエレベーター設置が早期に完成するよう関係機関と連携し円滑な事業の実施に努めてまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

ありがとうございます。

今年度設計、来年度工事完成ということで回答をいただきました。

ぜひよろしく願いいたします。

3点目です。自転車事故が少なくなるまちづくりについて。

本年も、9月3日から多度津小学校を皮切りに児童の自転車教室が始まりました。

以降、10月末まで町内4小学校の6年生と3年生の児童を対象に自転車の安全な乗り方教室を開催しております。

事故に遭わない、事故を起こさないをテーマに、暑い中、練習に励んでおります。

指導は、丸尾町長から任命されている8人の交通指導員と総務課担当者並びに私ども4地区の会長であります。

子供たちは元気よく練習に励んでおります。

次代を担う子供たちよ、ご安全にと念じつつ指導しております。

さて、自転車は、道路交通法上、車やバイクと同じように車両であります。多くの方が法規で教えられてきたと思います。

皆さん方も知識として理解されていることと思います。

しかし、道路上においての自転車への扱いが車両としての認識になっていないのではないのでしょうか。

例えば、歩道が設けられている道路を車で走行中、自転車が車道を走っていると、危ないな、邪魔。自転車は歩道を走れよなんて思いませんか。

自転車は車と同じ車両であります。

質問です。

多度津町の交通事故全体の状況と自転車が絡んだ発生状況などいかがなっておるのか。経年比較でご説明ください。

総務課長（岡部 登）

小川議員ご質問の多度津町の交通事故全体の状況と自転車が絡んだ発生状況について答弁をさせていただきます。

本年6月に行われました第53回交通安全子供自転車香川県大会におきまして、個人で1名が入賞し、団体でも4位に入っております。

これは子供たちの努力はもちろんのこと、指導員の皆様、交通安全を守る会の皆様を初め、ご協力をいただきました方々の情熱的なご指導のたまものだと深く感謝いたしております。

さて、平成29年中の多度津町における交通事故発生件数は86件でございました。

そのうち、自転車に関係した件数は9件で全体の10.5%を占めております。

また、事故発生件数は、平成25年以降に限れば、平成25年166件、平成26年125件、平成27年110件、平成28年107件、平成29年は、先ほど申しましたように、86件であり、毎年減少しています。

そのうち、自転車が絡んだものは、平成25年28件、平成26年22件、平成27年14件、平成28年7件、平成29年9件と、こちらもおおむね減少傾向にあります。本年の状況につきましては1月から8月までの交通事故発生件数は50件で、そのうち自転車が絡む事故は6件となっております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

狭い道路に、歩行者、自転車、車が混在しております。

本来、車は車の走行区間があって、自転車は自転車の、そして歩道は歩行者のために存在することが理想でありましょうが、残念ながら狭い日本ではそうはなっておりません。

また、改造できる余地も余りありません。ならば、どうするか。

弱者を大切にできる精神性が重要なんでしょうが、なかなか他力本願ですので、これも難しい。じゃあ、どうすればよいか。

自転車は左側通行を徹底せよ。互いに思いやる心とともに全ての車両がキープレフトを遵守すれば、出会い頭の事故は減少するでしょう。

今、子供たちには自転車の左側通行をくどいほど教えております。

大人たちはどうでしょう。高齢者はどうでしょう。

大人たち、高齢者たちに教える、指導する機会がなかなかありません。

かけ声だけの交通安全では精神論だけになりかねません。

ここで質問です。

行政が自分たちの責務としてその義務的機会の計画を考えてみませんか。

例えば、企業の安全教室、老人クラブなどシルバー世代の方々へのアプローチ、積極的に教室の機会づくりを進めてはいかがでしょうか。

総務課長（岡部 登）

小川議員ご質問の大人の自転車運転を学ぶ義務的機会について答弁をさせていただきます。

子供の自転車運転に関しましては、先ほど申し上げた自転車大会への参加だけ

ではなく、秋には各小学校において自転車教室などが行われております。
しかし、ご指摘のとおり、自転車事故を減らすためには子供たちだけではなく大人たちに対しての指導も必要であると感じております。
現在、高齢者の方に対しましては、高齢者自転車大会への参加を呼びかけ、そこで技術、知識の再確認を図るようにしています。
また、夏にはシートベルト着用・自転車の安全利用啓発街頭大キャンペーンを、秋には反射材着用啓発キャンペーンを主要幹線道路で実施し、そこで自転車の利用者の方にも交通マナーの向上、反射材の着用などを呼びかけております。
今後は、自治会、老人会などが随時交通教室を開催しておりますが、その際にも自転車の交通安全、安全利用に関する内容を積極的に取り入れてもらうよう働きかけていこうと考えております。
また、外国人研修生に対して交通指導を行っている企業から依頼があれば、講師を派遣し交通安全について指導を行っておりますが、自転車の安全運転についても周知する機会と捉え、活用してまいります。
さらに、行政主導でさらなる機会をつくっていくために、香川県がこの4月に制定した香川県自転車の安全利用に関する条例に基づき、県、警察等の関係機関と連携をとりながら、機会の創設、運転マナーの向上、交通事故防止につなげてまいりたいと考えております。
最後に、自転車の左側通行等を促す路面標示につきましても関係機関と協議し必要な箇所への設置を推進し、より自転車の事故を減らすことができるようにさまざまな検討をしてまいりたいと考えております。
以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

ありがとうございます。

今、岡部総務課長のほうから、自転車ピクトグラムでの左側通行指示を道路に表示する、こういったことも非常に有効でないかなと思います。
余談ですけれども、8月末の、毎月交通定例会をやっておりますけれども、その折に、多度津中学校の三木校長先生から1つお話がありました。
8月4日の花火大会の後、翌日ですね、中学生たちがボランティアとして港付近の清掃に毎年行っております。
そのときに、中学生が町内をボランティアに行くために自転車で走っております。
道に出た途端にバイクと接触して転倒したということでした。
転倒しましたがけれども、その生徒は先生から常に指導をいただいておりますヘルメットをきちっと着用しておりましたから、少しもけががありません。
後でヘルメットを確認すると、やはり転倒した傷がついておったそうです。

ということは、ヘルメット着用がなければ、もしかして大きな事故になってお
ったのではないかなというふうに、ほっと一安心しておりました。

こういった指導も非常に大切だと思います。

ただ、ヘルメットをかぶるのは子供たちだけでいいのでしょうか。

本来自転車を運転する際には大人も高齢者もヘルメットをつける、またそれ
にかわったものをつけると、こういうことも指導の一つではないかなというふう
に思っております。

こういったことも、岡部総務課長、ぜひご案内差し上げておきます。ありが
うございました。

また、いずれのときにか多度津町も議員立法で安全な自転車利用の条例を考え
ていけたらと思っております。

以上で7番、小川保の質問を終了いたします。

ありがとうございました。